

もり かず お  
**森 一生** (1911~1989)



**映画監督。**松山市出身。映画との最初の出合いは、商店を営んでいた父親の土産だった映写機と8ミリフィルム。その後、今治へ移り、愛媛県立今治中学校(現、県立今治西高等学校)へ転校、この頃観た「雄呂血」という作品に魅せられ、映画の虜となった。

京都帝国大学(現、京都大学)を卒業後、昭和8(1933)年、日活太秦撮影所に入社して脚本研究生となり、また、映画監督・伊藤大輔の下で記録係を務め、後に専属の助監督として映画撮影を手助けし、愛弟子として目を掛けられた。日活から第一映画社を経て、新興キネマへ移籍し、昭和11(1936)年、「仇討膝栗毛」で監督デビューし、新人離れした切れ味のいい演出で、絶賛を受けた。

昭和17(1942)年、中国へ出征、終戦後は大映京都撮影所に復帰し、時代劇、現代劇、喜劇、悲劇、アクション、ミステリーなどジャンルに囚われず、「薄桜記」「朱雀門」「敵中横断三百里」「大魔神逆襲」など数多くの素晴らしい作品を世に送り出し、終戦後の映画黄金期を支えた。

## 略歴

明治44(1911)年1月15日	北宇和郡明治村(現、松野町)に生まれる(間もなく松山市に転居)。
大正5(1916)年	福岡県八幡市に移る。
大正11(1922)年	八幡市の中学に入学、中学三年の時に母の里である今治に移り、愛媛県立今治中学に転校
大正14(1925)年	「雄呂血」を観て映画に病みつきになる。
昭和2(1927)年	松山高等学校(現、愛媛大学)に入学
昭和8(1933)年	京都帝国大学を卒業し、日活太秦撮影所の脚本研究生となる。
昭和9(1934)年	記録としてついた伊藤大輔監督の「忠臣蔵刃傷篇復讐篇」封切り
昭和11(1936)年	新興キネマに移る。監督としてデビューとなる新興キネマ作品「仇討膝栗毛」封切り
昭和17(1942)年	監督作品「三代の盃」完成直後、出征
昭和21(1946)年	復員。監督作品「手袋を脱がす男」封切り
昭和22(1947)年	監督作品「婦人警察官」封切り
昭和23(1948)年	監督作品「山猫令嬢」封切り 演出をしたエノケンプロ作品「極楽夫婦」封切り
昭和26(1951)年	長谷川一夫主演の監督作品「銭形平次」封切り。以来シリーズ化する。
昭和27(1952)年	東宝に招かれ、黒澤明脚本の監督作品「決闘鍵屋の辻」封切り
昭和32(1957)年	監督作品「朱雀門」封切り 監督作品「敵中横断三百里」封切り
昭和34(1959)年	監督作品「薄桜記」封切り
昭和41(1966)年	監督作品「大魔神逆襲」封切り
昭和42(1967)年	市川雷蔵主演の監督作品「ある殺し屋」封切り
平成元(1989)年6月29日	78歳で永眠

### 〈関連図書〉

- ・森一生『森一生映画旅』 草思社 1989年
- ・『森一生文庫目録』 京都府京都文化博物館 1991年
- ・錫明弘&京都キネマ探偵団『京都映画図絵』 フィルムアート社 1994年
- ・今治市文化顕彰実行委員会『映画監督 森一生の人と作品』 今治市文化顕彰実行委員会 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P231~232, 165~167)

〈関連施設〉…京都府京都文化博物館

〒604-8183 京都府京都市中京区三条高倉 TEL: 075-222-0888